

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 佐藤敏久	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 佐々木茂・石川和男・石原慎士 編 (2014)『地域ブランドの革新』第五章「地域ブランドと消費者行動」同友館 担当 pp.174-184</p> <p>(2) 組織間ネットワーク形成に関する研究</p> <p>研究論文作成のため、昨年度から行っている実務家へのインタビューを本年も行った。なかなかお話を伺うことができない「現場」で陣頭指揮をとっている方々にインタビューしながら、先行研究のサーベイと合わせ、仮説を練り上げる作業を繰り返している。この研究とは別に、並行して、消費者行動とマーケティング・コミュニケーションをテーマとした研究も目鼻がついてきたところである。</p> <p>(3) ゼミ活動</p> <p>①Student Innovation College (通称:Sカレ) への初参加</p> <p>全国 29 大学、経営・マーケティング分野 33 ゼミが、実際の商品開発案と、市場化について競い合う大会に 1 年間のすべてのゼミ活動の時間をかけて参加した。ゼミからは 6 チームが別々のテーマで参加した。製品化してくださる企業の方々に具体的な製品の試作品を提示しながら、プレゼンを行った。製品化への次のステップには進めなかったが、ゼミ生はチームで一つのことを話し合いながら作り上げていくということ、全国の様々な大学と競い合うことによって、自分たちの力を試すということ、さらに、実際に市場化することの大変さについて、貴重な経験を得たと思う。</p> <p>この大会への参加はゼミ生自らが参加希望したものであるが、教員として、ゼミの時間だけではなく、夏休みや授業以外の時間のほとんどを使って、6 チームすべてを途中で棄権することなく発表可能な状態まで持って行けたことは、とても勉強になった。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>現在行っている研究を論文として結実させることが急務であり、教員としては、次年度も、ゼミでの人材育成に力を入れていく。</p>	